

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま【なののはな】		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187番地3		
自己評価作成日	平成23年7月11日	評価結果市町村受理日	平成23年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900074&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成23年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>馴染みの暮らしの継続 味噌作りや梅干し作り、畑作り等時期が来ればあたり前に行ってきた事を続ける事で、生きがいや季節感につなげられるよう心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>訪問時、利用者は、ホールで職員と会話を交わしていたり、テレビを見ている人、一人でソファに座って休んでいる人など思い思いのんびりと過ごされていた。挨拶も笑顔で交わり、爽やかであった。近くの公民館で、毎月開かれる老人クラブの定例会に参加し、利用者も一緒に血圧測定や話合いに参加している。また、地域で行っている学童の見守り隊にクラブの一員として加わっている。昔から行われていた馴染みの行事や、地域の人たちの応援を頂きながら味噌作りと梅干し作りに取り組んでいる。香りがよく、味の良い美味しい味噌が出来ている。梅干しは、手順にそって利用者で漬けこみ、少々課題の残る出来栄であったが、利用者が皆で作る貴重な体験が行われている。事業所では、利用者の支援の充実を目標に、認知症の専門の職員養成を目指して内部研修に取り組んでいる。3月に発生した大震災を受けて、その対応に向けた支援についても検討が続けられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に理念を復唱している。理念を全職員が共有し日々の生活で実践につなげている。	「家庭的な環境と地域環境の下で笑顔で明るく安心した生活が送れ、残された機能の充実を目指した支援に努める」を理念に掲げ取り組んでいる。全職員で話し合っ決めてもので玄関やスタッフルームに掲示し日々の実践につなげる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学童下向時の見守り隊やふれあい農園での野菜作りを行い、地域の一員として日々交流している。	職員構成で「地域の委員会」があり、企画、情報の収集等に当たり、地域の一員として積極的に交流に努めている。学童の下校時の「見守り隊」も順番制で利用者と一緒に出かけたり、町民農園では野菜作りを教えて頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年3回にこにこ学級を行っている。また、地域住民対象にキャラバンメイトとして認知症の理解や支援方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見を踏まえて、業務ミーティングで話し合い、サービスの向上に生かしている。	2ヶ月に一度、奇数月に市保健福祉課職員、行政区長、町ボランティア連絡協議会会長、家族会代表、利用者で推進会議を開いている。家族アンケートの内容について説明し、意見を聞いている。大震災時の対応やお祭りへの参加について状況を説明し、委員から出された意見を支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議へ出席して頂いている。また、日頃から連絡をとり実情や、ケアサービスの相談をしている。	広域行政組合の介護保健課や福祉事務所の職員が主な窓口となってホームの実情を伝えながらショートステイや利用開始時の主治医の意見書、往診時の対応などについての相談、また、日常のケアサービスについて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施している。身体拘束をしない対応策を考えケアに取り組んでいる。	職員が講師を努めながら内部研修に取り組んでいる。独自のマニュアル「禁句といわれる言葉」を作成し、職員が共有を図りながら拘束をしないケアに努めている。外部研修は今後出席予定としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行っている。スタッフ同士も互いに注意しながら防止に努めている。また、スタッフ間の連携を十分に図り、虐待を見過ごされる事のないよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修を通じ、共通理解をしている。必要に応じ関係者と話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、本人と家族への説明を行い、疑問にも応じており、理解納得は得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や、アンケートの実施をしている。内容を検討しながら運営に反映させている。	お花見、敬老会、クリスマス会と併せて年3回の家族会や年1回のアンケートを実施している。家族から聞いたことで皆にお知らせした方がよい内容については、広報「にこにこ便り」に記載し、ご家族や地域の人達に紹介している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時には職員の意見を聞く機会を作っている。また、個人面談等で意見を聞き反映させている。	毎月開く職員会議や管理者との面談が3回行われ意見を話せる環境づくりをしている。業務の見直しや利用者の機能低下による介助について提案されたこと等がサービスの向上に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた研修を年間計画に組み込んでおり、資格取得出来るよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交流を持ち見学や情報交換をしている。また、外部研修への参加により知りあった同業者とその後交流を持ちネットワークを広げサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話しや訴えにきちんと耳を傾け受け止める事を大切に、本人の思いを聞き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の会話やアセスメントシートを活用し、家族の思いを知るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要な事は何なのか、職員、本人、家族等で話し合い考えている。また、その後についても都度話し合いを持ち検討しながらサービス提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の出来ている事、出来ない事を理解しお互い支え合う関係を築けるようにしている。畑作りや行事ごとについては職員は教えられることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながらケアを行っている。また、遠方の家族が面会に来た際にはホームで宿泊しゆったりと過ごしてもらう事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞きながら家族の協力をもとに、ふるさと訪問を実施している。ホームの周りだけが地域ではなく、生まれ育った場所も地域であると思い支援している。	美容院への継続支援やご家族との茶会や馴染みの牧場を見に行ったり、世話になった神主を訪問したり、奥さんが入所している施設を訪問したり、またホームを訪問してもらう機会を作ったりして馴染みの人達との関係が続くような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い不自由なところを助け合える関係が気付いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居になった場合でも退院後困る事のないよう相談や支援に努めている。また、その後であっても相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、ケアプランに取り入れる事でスタッフ全員が情報を共有し一人ひとりの意向に添えるよう取り組んでいる。	本人の希望を基本情報シートに書き留め、スタッフ全員が共有できるようにし、利用者の意向に添える支援に努めている。日常の会話を大事にしながら、花壇の整備や苗の植え付け、買い物などについて本人の意向に添えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時や家族、本人とのコミュニケーションの中で出来るだけ多くの情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りと、申し送りなどから暮らしの現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでチームの意見交換を行っている。また、日々の生活での見守りの中からケアのヒントを得ている。	介護プランは、本人、ご家族の状況や要望を聞きながらカンファレンスを行い作成している。見直しについては、毎月検討し、変化があればその都度作成し、3ヶ月目には評価を行いそれに基づいてプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を記録に残し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態によっては、デイサービスの特浴を使用する事もある。また、成年後見制度など多機能に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会と一緒に行事を行っている。子供を安全に見守り等普段は発揮できない力を発揮する機会を持てるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に診てもらっている。日頃の様子については手紙を作成し医師との連携をとっている。	利用者はそれぞれかかりつけ医をもっており、診察を受けている。緊急時を除いては、家族対応が原則になっている。かかりつけ医とは手紙や電話を利用して緊密に連絡を取り合い、家族にも伝えながら適切に医療を受けられるような支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや、変化があった時は出勤日以外でも連絡をとり適切な指示を受けている。常に相談出来る体制が築けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族との情報交換を行い、治療に専念できるよう支援している。また、早期退院に向け主治医と連携を密にとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ターミナルまで行える事の説明をしている。グループホームでの出来る事、出来ない事を理解して頂いた上で状態に合わせ必要な時には、家族、主治医と相談しながら進めている。	看取り指針も出来ており、過去に例もある。利用開始時には、利用者、家族にはホームで出来ること、出来ないことを段階を踏みながら、主治医と相談しながら支援していく事を説明している。今後も適切でより良いケアが出来るよう勉強会、研修会を実施する予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や、AED講習を行っている。また、マニュアルも作成しておりいつでも確認出来るようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方で防災協力隊を結成し、地域の協力が得られるよう取り組んでいる。まあ、毎月家事や地震等想定し避難訓練を実施している。	ホーム独自では毎月避難訓練を実施している。総合訓練は、消防署の指導と地域防災協力隊の参加の下に年2回実施している。協力隊は11名で組織され、積極的な支援を頂いている。連絡網や役割分担もよくなされ、マニュアルも整備されている。	スプリンクラーも整備され、地域の協力を受ける体制も作られ、意欲的に訓練に取り組んでいる。夜間を想定した訓練も行われているが万全を期するために夜間の訓練をされることを望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で意見や必要性を理解している。マニュアルは見直しを行い、スタッフ同士注意し合い取り組んでいる。	排泄等に失敗した時の対応の仕方や、プライバシーを損ねない言葉掛けに真剣に取り組んでいる。禁句を中心にしたマニュアルを独自に作成し、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に職員一丸となって取り組んでいる。特に入浴や排泄の介助には気配りに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から話せるような雰囲気を作りながら、個々の能力に合わせて自己決定出来るよう個別に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間、入浴の時間等それぞれのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時やイベント時に化粧をするなどオシャレを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて食事作りが出来るよう対応している。準備から食事、片付けまで常に入居者様と一緒にやっている。	食事づくりから後片付けまで、利用者が個々の能力に応じて参加出来ることを目指して取り組んでいる。食べる時は、利用者と全職員と一緒にテーブルを囲み、会話を交わしながら、楽しく食べている。地域の人達と一緒に作った野菜も話題に取り上げながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	温度表や水分チェック表を活用し一目でチェック出来るようにしている。状況に応じて補食を提供したり申し送りをする等支援が途切れないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り自分の力で行えるよう支援している。必要に応じて磨きなおしを行い、清潔に保てるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。全入居者様がトイレで排泄出来るように統一したケアを提供出来るよう努めている。	排泄チェック表をみんなで共有し、さりげなく誘いを掛けトイレでの排泄が出来るように努めている。ケアプランに排泄介助の仕方を個々に応じて記述し、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者様に対しては冷水を起床時に提供したり、出来るだけ運動するよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を聞き、希望に添えるよう支援している。	利用者の希望に沿って好む時間に入浴できるように努めている。浴槽はユニットごとであり、同性介助で楽しませている。入浴を拒否するような場合は、清拭や足浴に変えてみたり、入浴剤を入れたり、介助者を変えたりしするなどの工夫で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度、湿度、環境など気をつけている。その時々に応じて好きな場所で休息出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や、作用等について理解出来ており薬変更の際も体調変化がないか気をつけて観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やってみたい事、楽しみ事を入居者様に聞きながら気分転換の支援をしている。皆がそれぞれに持っている力を発揮できるような環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に戸外に出れるよう環境を整えている。また、本人の希望を家族に伝えており積極的に外出を支援して頂けるようになってきた。	利用者の希望に沿えるように家族の協力を受けながら理美容院に連れて行ったり、ふるさとめぐりや買い物に出かけている。散歩を兼ねて野菜畑に出かける利用者もいる。夏祭りには、地域の協力を得ながらみんなでドライブしながら出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々で所持する事はなくなったが、希望で買物に行く際は支援している。お小遣い帳を作成し残高がすぐ確認出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	奥様へ手紙を書かれたりする方もいる。それぞれの状態、能力に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を飾るなど居心地の良い空間作りに努めている。また、毎日温度、湿度を図り快適に生活できるように工夫している。	ホールには、テーブルやいす、ソファ、テレビが置かれ、時計、暦、作品、写真などが飾られ家庭的な雰囲気作りに工夫がなされている。黒板が用意され、利用者が月日を記入したり、カレンダーの日めくりをしている。利用者の習字が掲示されていた。洗面台には歯ブラシが置かれ歯磨きができるようになっている。廊下には畳が置かれ、休む場所として利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置を工夫し、落ち着ける空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く、安楽な生活、移動が出来る様配置なども含み工夫している。	居室に、愛用されていた筆筒や三味線、茶道具を持ち込まれている方もいる。位牌をお持ちになり置かれている人、写真や暦といったものを飾り、家庭と同じ気分で過ごされるようにするなど、それぞれ工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境チェックを行い、不備な所は都度見直し、安全な環境作りに努めている。また、分かりやすい様場所、各部屋の説明もされている。		